

「社会健康医学」基本構想検討委員会（第2回）会議録（議事要旨）

日 時	平成28年7月27日（水）午前10時15分から午前11時45分まで
場 所	ホテルアソシア静岡15階「ベラビスタ」
出席者 職・氏名	出席委員：9名（敬称略） 本庶佑、佐古伊康、田中一成、鶴田憲一、中山健夫、宮田裕章、宮地良樹、望月律子、山本敏博 欠席委員：2名（敬称略） 徳永宏司、山本清二 事務局 副知事 吉林章仁 健康福祉部長 山口重則 健康福祉部部長代理 渡瀬浩 健康福祉部理事 壁下敏弘 健康福祉部管理局長 鈴木 宙志 ほか健康福祉部職員
議 題	1 静岡県が目指す健康長寿について 2 科学的裏付けに基づいた取組について 3 その他
配布資料	議事次第 「社会健康医学」基本構想検討委員会委員名簿 資料1 「社会健康医学」基本構想検討委員会（第2回）について 資料2 静岡県が目指す「健康長寿」（案） 資料3 科学的視点からの健康づくり①（山本清二委員説明資料） 資料4 科学的視点からの健康づくり②（中山健夫委員説明資料） 資料5 科学的視点からの健康づくり③（宮田裕章委員説明資料） 参考資料1 「社会健康医学」基本構想検討委員会（第1回）における意見 参考資料2 国際機関や静岡県における健康の定義等について 参考資料3 静岡県内の大学等における社会健康医学関連の研究事例 ※その他、資料として、中山委員から「京都大学大学院 医学研究科社会健康医学系専攻 2016」（同専攻の年報）の提供があった。

1 審議事項

- (1) 社会健康医学研究のための拠点について
- (2) 社会健康医学研究の内容について
- (3) 社会健康医学に取り組む効果について
- (4) まとめ

2 審議内容

山口健康福祉部長から、第1回のまとめ及び静岡県が目指す「健康長寿」（案）について、資料1・2に基づき説明し、山本清二委員（事務局代読）、中山健夫委員、宮田裕章委員から、各大学における取組について、資料3～5に基

づき説明した後、各委員による議論を行った。

(1) 社会健康医学研究のための拠点

- ・健康寿命延伸の施策を県民満足度の最大化につなげるためには、社会健康医学研究を推進し、社会健康医学を理解する人材を育成するための拠点が必要である。
- ・拠点の主な機能は、次の3つ。①地域のリーダーとなる人を作ること（学究生活に入る人もあり得る）と、②静岡県内で得られるビッグデータを地域で活用し県の施策に反映させるための指導的な役割を果たすこと。③他の大学や研究所と連携し、相互補完的に運営でき、最先端の情報が得られる拠点とする。

(2) 社会健康医学研究の内容

- ・公衆衛生学を具体的に地域の健康施策へ反映できる研究が必要。
- ・県民に予防医学の成果を提供するには、遺伝情報、環境情報から、各保険者が持つレセプトデータや健診データ、死亡情報に至るまで、様々なデータを繋げ、時系列に並べて観察するコホート研究が必要。
- ・健康寿命の延伸の施策を成果あるものとするには、高齢者だけでなく胎児～幼児期の健全な成長の影響が大きいいため、ライフステージに応じた予防医学の研究が必要。

(3) 社会健康医学に取り組む効果

- ・地域の課題については地域に根ざした人材の方が解決への意識が強い。近年、臨床医の意識が変化し、京都大学社会健康医学系専攻が取り組むリサーチマインドや社会健康医学の知識や技術の必要性について認識されるようになった。
- ・社会健康医学の取組は医師にとって魅力的な環境を構築する。社会健康医学（パブリックヘルス）のフィールドを用意することにより、現場の生きたリサーチクエッションを臨床研究へ昇華し、その研究成果がよい臨床を生むという循環ができれば、地域医療の充実という大きな流れに繋がる。

(4) まとめ

- ・健康長寿を推進するためには予防医学の視点からのいくつかの研究が必要である。現状では、県内の大学や公設試験場などで散発的に研究が行われている。静岡県の健康寿命延伸に着目した体系的な取組が必要である。
- ・全国の大学・研究所等と連携し、様々な情報をまとめて予防医学の研究を行いながら、現場で働く人材を育成する、社会健康医学の拠点が必要である。